



まちのできごと・マンスリーでお知らせします。

8/26 リニューアルグランドオープン
道の駅サーモンパーク千歳



道の駅サーモンパーク千歳がリニューアルグランドオープンしました。当日は、市長をはじめ、国土交通省、道議会議員などの来賓によるテープカットが行われたほか、翌27日には、地元を中心としたよさこいチームによる演舞が披露され、新しいスタートを盛り上げました。道の駅では、サケをテーマとしたメニューや商品を数多く取り扱っており、オープン前から並んでいた多くの方が、サケのパン、刺身、珍味などの買い物・飲食を楽しみました。これからの季節、千歳川では本格的なサケの遡上シーズンを迎えますので、サケのふるさと千歳水族館とあわせてお楽しみいただけます。

8/26 清流と緑を守る市民の会
4年ぶりの千歳川清掃



市街地を流れる清流千歳川の清掃が4年ぶりに行われました。桂木6丁目から稲穂までの広範囲にわたる川清掃でしたが、参加した186人の市民の皆さんは汗を流しながら川の中や、河川敷のごみを拾いました。川の中からは、ペットボトルや空き缶のほか、布団や金庫など、大きなごみも見つかりました。参加者からは、「川がきれいになって気持ちがいいね」「服が汚れてしまったけど、川がきれいになったから良かったよ」など、清々しい会話が聞こえてきました。



8/4
8/7 インターハイなぎなた競技大会
高校生たちの熱い夏



36年ぶりの北海道開催となったインターハイ。なぎなた競技大会の開催地である千歳市に全国から75校が集結し、例年ない酷暑の中、高校生たちが激戦を繰り広げました。前大会、2年生主体のチームながら団体試合を制した沖縄県の首里高校は、優勝メンバーが全員残留。今大会も前評判通りの強さを見せつけ、悠々と連覇を達成しました。演技でも決勝戦が同校同士の対決となり、来場者たちはその美技に酔いました。地元、札幌国際情報高校の頑張りも大会を盛り上げました。2度にわたる延長戦の末にグループリーグを勝ち抜き、決勝トーナメント進出を果たしたくめい 華陽さんは「支えてくれた仲間や先生、家族に感謝」とコメント。3年間の努力の成果を見せた熱い夏を、笑顔で締めくくりました。

8/8 ふるさとポケットをPR
熊谷 鳳乃さんの絵がポスターに



北陽小学校1年生の熊谷 鳳乃さん(写真中央)が描いた絵が、9月24日開催予定の生涯学習まちづくりフェスティバル《ふるさとポケット》をPRするポスターに選ばれました。ポスター作成にあたっては、市内の小学1~3年生から絵を募集し、応募作品814点の中から鳳乃さんの作品を選出。一つの大きなおにぎりを大勢で食べるという今までにないアイデアと、子どもたちの笑顔が審査員の心をつかみました。遠足をイメージして作品を描いたという鳳乃さん。「このポスターを見た人が楽しそうだなと思って、たくさん来てくれたらいいなと思います」と話しました。ちなみに大きなおにぎりの中身は、梅干しとツナマヨだそうです。

8/18 千歳市民納涼盆踊り大会
中心街を大行列が埋め尽くす



千歳の夏の風物詩、市民納涼盆踊り大会が開催され、中心街がパレードで賑わいました。大会には、昨年の約2倍となる21チームが参加。幸町2丁目からグリーンベルトおまつり広場にかけて、盆踊りの参加者と見物客による大行列が道路を埋め尽くし、大きな盛り上がりを見せました。市外からも、チャダンスチームのレバング北海道パシタスピリッツとコンサドルズがゲスト参加。息の合ったパフォーマンスを披露し、来場者を喜ばせました。

人のうごき

《総人口》
98,023人(+184)
男性 49,837人(+124)
女性 48,186人(+60)
《世帯》52,207世帯(+103)

()内は、前月との比較です。

9-1 現在

Vol.05 **努力と汗の結晶**

Chitose Airport 100th anniversary

「事にあたって一致団結する」その精神は、ときに《スピリット・オブ・チトセ》と表現されます。村民大会では、着陸場の造成を全会一致で決定した千歳村。村議の渡部栄蔵らの主導で、村民たちは着陸場の造成に取りかかりました。造成作業には青年団、婦人会、それに小学生までもが鋸や鍬を手に参加。まさに村を挙げての一大事業でした。ある者は根株を抜き、ある者は空いた穴を埋め、多くの村民が汗を流した着陸場づくりでしたが、思いはただ一つ。「飛行機を間近で見たい」そして、2日間ほどの造成作業で完成した、長さ110間、幅60間(約200メートル×約110メートル)の着陸場。のちに《北海道の空の玄関》と呼ばれるこの場所は、《スピリット・オブ・チトセ》が生んだ努力と汗の結晶。この小さな着陸場こそが、今日の新千歳空港の原点となったのです。

「あとは飛行機が来るのを待つのみ」渡部は、眼前に広がる着陸場を見つめながら、志をともにする村民たちのことを、誇らしく思うのでした。

ちとせ空港 百年物語

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港100年の歴史を振り返る

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851